

大地震への備え・・・シリーズ2、初期消火のコツを確実に身につけよう・・・

阪神大震災では地震から3日目を迎えても、火事が多発した。地震発生から48時間で、神戸市内で起きた火災は約250件、その後も火災は各地で発生、15日後までに450件に達したという。一方、震源地の淡路島では、約6000棟の家屋が全壊又は半壊したが、火災の発生は、わずか2件だった。淡路島ではプロパンガスが使われており、避難に先立ちガスの元栓を閉めたのと、ガスボンベのメーターに付いている安全装置が働いたと見られているが、大阪市消防局の調べで、都市部では火の始末に1割強の人が無頓着だったことが分かった。電気の復旧とともに火の手が上がったとの証言により「通電火災」だったと言われた。

火災は絶対に起こさないという心がけが大切ですが、それでも火災が発生した時は初期消火で火災の拡大を阻止しなければなりません。

初期消火のチャンスは3回ある。 (東京消防庁安全課)

①揺れを感じた時

最初の揺れはそう強い衝撃ではない「グラッ」ときたら、その2、3秒後の瞬間をとらえ、使用中の火を止める。

②揺れがおさまったとき

揺れが大ききときは、机の下などに伏せ、揺れがおさまったのを待って火を消す。

③出火した直後

出火後1、2分程度では、まだ燃え広がらない、消火器で消せる。近所の人に知らせ協力して消す事も出来る。

◎注意事項：

- 不用意に火に近づかない事＝余震によるやけどの危険が有る。
- 鍋の油に引火した時、野菜など絶対投げ込まないこと＝野菜が濡れていると油がはじけ、炎が飛散する。
- 初期消火の可能な限界＝炎が天井に届くまで、それ以上広がると簡単に消せない。
- 手に負えないと思ったら＝迷わず避難する。
- 煙に注意＝有毒性のガス発生も考えられる、濡れタオルを口に当てるだけでも効果あり。
- 避難する時＝電気のブレーカーは落しておく。

消火器の使用のポイント・・・・・・・・ (東京消防庁指導)

- ①姿勢を低くして熱や煙を吸い込まない様にする。
 - ②薬剤は手前から掃くように火元にふりかける。
 - ③風上から風下へ薬剤が放出される時間は10～20秒。あせらず確実に火元へ噴射する。
- 注、ふとん等は粉末消火器で消したつもりでも、後から燃え出す事が有るので、さらに水をかけておく。

◎消火器は初期消火に大変効果が有ります。必ず備えるようにしましょう。

粉末消火器の使い方

- ①消火器を火元まで運ぶ
- ②安全栓を抜く
- ③ノズル取る
- ④ノズルを火点に向ける
- ⑤レバーを強く握る
- ⑥放射する



消火器が無かったらどうする。

- ①風呂の残り湯をかける。
 - ②毛布や濡れたシーツをかぶせる等の手段が有る。
- なべの油に火が入った場合、マヨネーズの容器を投げ込むと効果が有る (神戸市の消防職員が発見)